

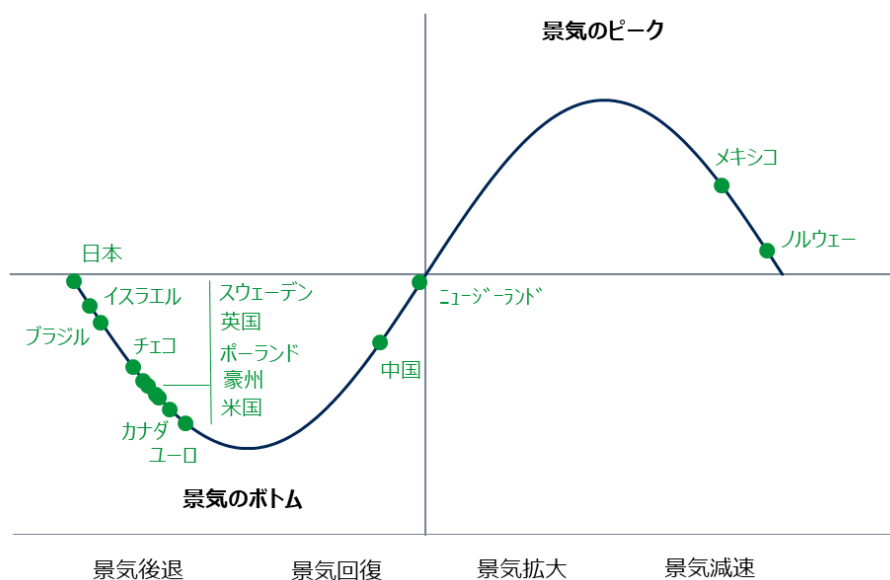
2022年11月11日

ベアリングス・ジャパン株式会社 運用本部 先進国ソブリン債券チーム

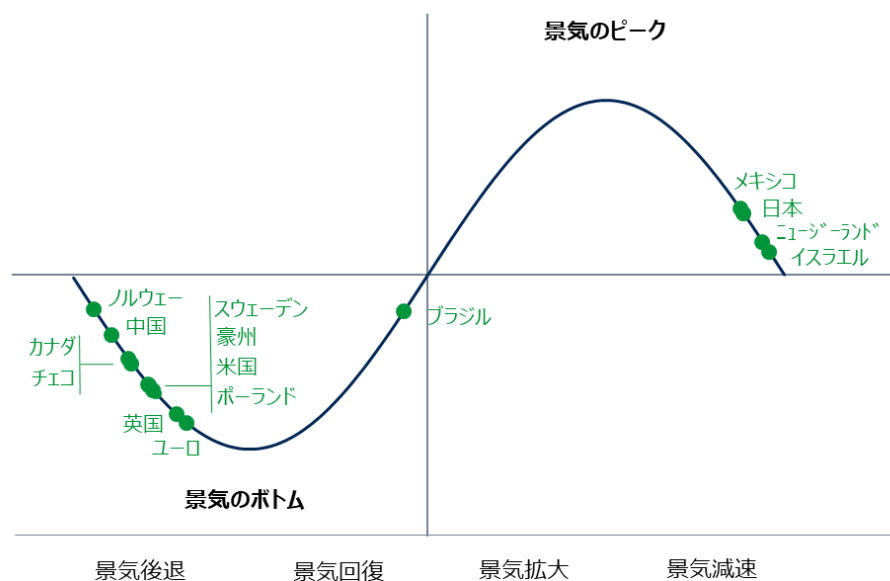
1. 2022年11月の状況と、2022年10月からの変化

今月も景気後退局面に位置する国が多く、日本もその中に加わりました。カナダは先月の中央銀行の会合で、減速する景気に配慮する形で利上げ幅が0.75%から0.5%へ縮小されましたが、景気循環図においてもボトムに大きく近づくなど、景気の減速感が鮮明となりました。一方、中国は製造業PMIの6ヶ月変化率が改善し、景気回復局面へ移行しました。

2022年11月時点のベアリングス世界景気循環図



2022年10月時点のベアリングス世界景気循環図



上記は景気循環の状況をあくまで簡単な例として示すものであり、今後の各国の経済情勢を示唆または保証するものではありません。

出所：Markitの製造業PMI指数などを基にベアリングス・ジャパンが作成

2022年11月11日

ベアリングス・ジャパン株式会社 運用本部 先進国ソブリン債券チーム

2. 先進国ソブリン債券チームの今後の見通し

物価情勢については、供給制約の解消に伴い、財価格のインフレ圧力の低下が鮮明となっております。また、賃金やサービス価格についても、徐々に伸び率の鈍化が顕在化してきており、債券投資への逆風が和らぎつつあります。こうした中、主要国の多くが景気後退局面にあると見られることは、景気後退を押しとどめる金融緩和が必要とも言え、債券投資にとってより良い環境が整ってきたと考えられます。

また、実体経済については、これまでに実施された利上げの影響が着実に反映されてきています。ベアリングス世界景気循環図からは欧州に続き、カナダなど多くの国で景気後退入りに向けて歩みを進めていることが確認できます。遅行性のあった賃金やサービス価格についても、徐々に景気循環図に追従する形となっており、今後こうした傾向は強まっていくと見ています。

先進各国においては金融引き締めが継続されていますが、豪州やカナダ、ノルウェーでは中央銀行が利上げ幅を縮小するなど、利上げペースを見直す動きも見られています。また、米国においても、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ幅縮小が視野に入るなど、インフレ抑制に向けた大幅利上げの局面から、これまでの利上げの効果を見守る局面へと金融政策運営の潮流が変化しつつあります。今後、景気悪化の進行や物価上昇の沈静化とともに、利上げペースを見直す国々が拡大することにより、世界的な金利上昇トレンドの転換点を探る動きが強まると考えます。

（ご参考）ベアリングス世界景気循環図とは

各国の景気サイクル（景気後退、景気回復、景気拡大、景気減速）の位置を把握する目的で作成

- 定量的アプローチにより、各国の相対的な位置付けを1つの曲線上に表示
- 6ヶ月変化率から、各国の景気の拡大、縮小の方向性を判断
- 各国の過去最大10年間のデータに対する現在の水準を、景気のピークからボトムの間で表示

使用している主なデータは以下

- 経済協力開発機構（OECD）景気先行指数
- 製造業購買担当者景気指数（PMI）
- 各国向けの日本の工作機械受注
- その他（欧州経済研究センター（ZEW）景況感指数、オーストラリア・ニュージーランド銀行（ANZ）企業景況感指数、李克強指数など）

ベアリングス・ジャパン株式会社

当資料は、ベアリングス・ジャパン株式会社（以下、「当社」）が金融市場動向に関する情報提供を目的に作成した資料で、法令に基づく開示書類あるいは勧誘に関する資料ではありません。当資料は、当社が信頼できる情報源から得た情報等に基づき作成していますが、内容の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に掲載した運用状況に関するグラフ、数値その他の情報は過去の一時点のものであり、将来の運用成果等を予測あるいは保証するものではありません。なお、事前の承諾なく掲載した見解、予想、資料等を複製、転用等することはお断りします。

金融商品取引業者： 関東財務局長（金商）第396号 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
2588640